

白馬高等学校の今後に係る検討の方向性について

高校教育課

平成 26 年 5 月 1 日に「1 学年 2 学級規模の定員に満たない学校の再編基準」に該当した白馬高等学校について、以下の方向で検討を行う。

1 学科の改編

現在は普通科 2 学級募集であるが、普通科 1 学級・国際観光科（仮称）^{*} 1 学級募集とし、国際観光科（仮称）は全国募集とする。

*【国際観光科（仮称）】

観光に係る知識と技能及びホスピタリティー・マインドを身に付けるとともに、英語力の向上と異文化理解の増進を図り、国際的な視野から物事を考えられる資質を高め、観光分野をはじめとした様々な分野で主体的に活躍できる人材の育成を目指す学科。

2 検討を行う理由

- (1) 長野県は「世界水準の山岳高原観光地づくり」を目指しており、高等学校段階から本県の観光を担う国際的素養を持った人材の育成が必要である。
- (2) 白馬、小谷地域は世界的な山岳観光地で、「世界水準の山岳高原観光地づくり」の重点支援地域に位置付けられており、特に白馬村は外国人延宿泊者数が県内で最も多いなど、観光を学習するための環境に恵まれている。
- (3) 白馬高等学校は、世界的なスキー選手を多数輩出しているなど、全国的に知名度が高く、これまでも県外出身者で学んでいる者もあり、国際観光科（仮称）を全国募集とすることで、全国からの志願者が見込まれる。
- (4) 白馬村、小谷村から学校教育を一層充実させるための支援策（別紙参照）が提案されており、両村と県教育委員会が連携することによって、コミュニティー・スクール等を視野に入れた、地方創生のモデルとしての新しい学校運営が期待でき、地域の活性化や震災復興にもつながる。
- (5) 地域高校としての従来の役割は、普通科 1 学級を継続することにより確保できる。

3 今後の予定

今後更に検討を進め、平成 27 年 6 月教育委員会定例会までに、県立高等学校全体の学科設置とあわせて審議。

(別紙)

白馬高校の経営・運営に参加する地域案

基本方針

1. 普通学科1クラス、国際観光学科(普通科専門学科)1クラスの設置
2. 寮を完備した全国募集

県教育委員会に要望した上記内容に対して⇒「村が今後どのように白馬高校の運営に参加するのか」

地域の考える負担部門

① 県教育委員会との役割分担

a. 授業への補助

- ・TT 授業(語学教育、観光教育)等への支援
- ・ICT 教育実施の機器購入等への補助(タブレット端末、電子黒板、無線LAN、ICTコーディネーターの配置)
- ・授業におけるマイクロバス等の利用への補助

b. クラブ活動への支援

- ・スキー部に対する専門家の指導体制の確立
- ・大会時の技術コーチの随行と遠征時の遠征費の補助
- ・スキー用具購入費の一部補助
- ・スキー部以外に対する補助(指導者謝礼、用具整備費補助)

c. 進路保障への支援

- ・平日、土曜日における大学進学希望者補習希望者に対応した、公営塾の設立と運営(講師人件費、教材費補助)
- ・観光分野での白馬高校型デュアルシステムの構築と協力
- ・語学研修支援(留学費用補助)

d. 山岳分野の学習の支援

- ・山岳実習費用補助

② 全国募集する場合、地域として考える負担

a. 寮の整備

- ・物件の購入と改修(男子)
- ・下宿費用補助(女子)

b. 寮生活の管理と学習研修体制づくりと補助

- ・管理人の配置
- ・学習スペースの設置と学習講師謝礼

c. 全国募集の体制づくり

- ・全国募集コーディネーターの配置